住之江区将来ビジョン

～令和7年4月策定～

住之江区将来ビジョンの策定にあたって

大阪市では他都市からの転入超過などにより、平成12年以降人口増加傾向が続いていますが、将来的に人口は減少に転ずる見込みであり、社会状況の変化などに伴い、今後の高齢社会の進展による社会保障費等の義務的経費の増、多様化・複雑化する地域福祉課題への対応の必要性、子育て・教育環境の充実に向けた施策実施の必要性、公共施設の老朽化に対応する改修・修繕等にかかる経費の増、自然災害や感染症など多発する危機事象への備えの必要性、地域コミュニティの組織基盤強化の必要性などが見込まれています。

住之江区は大阪市の中でも少子化や高齢化が進んでおり、災害への対応も、子ども・子育てへの支援もさらなる充実が必要な地域です。

こちらの「住之江区将来ビジョン」は、概ね5年後の住之江区のめざすべき姿について、それを実現するための3つの柱とその施策を推進するための方策についてとりまとめたものです。区民のみなさまには、「住之江区将来ビジョン」をぜひご一読いただき、住之江区の未来の姿をイメージしていただければ幸いです。

そして、区民のみなさまと区役所が協働して、

心から誇りに思えるまち、住之江区 を実現してまいりたいと思います。

住之江区長　藤井 秀明

もくじ

Ⅰ 住之江区について	3
1 住之江区の概要	4
2 名前の由来	6
3 歴史	7
Ⅱ 将来像と施策の方向	9
1 住之江区の将来像	10
2 将来像を実現する3つの柱	10
3 施策推進のために	10

Ⅰ 住之江区について

1 住之江区の概要

2 名前の由来

3 歴史

Ⅰ 住之江区について

1 住之江区の概要

住之江区は大阪市の湾岸部南端に位置し、北部は木津川、南部は大和川、西部は大阪湾に面しています。

また、海の玄関口という特性があり、フェリーで九州や海外の都市とつながっています。

住之江区では、南港とフェリーで結ばれている都市と交流を進めており、交流を通じて、それぞれが相互にPRを行うことで、人の往来の活性化を図ってまいりたいと考えています。

鹿児島県志布志市との交流

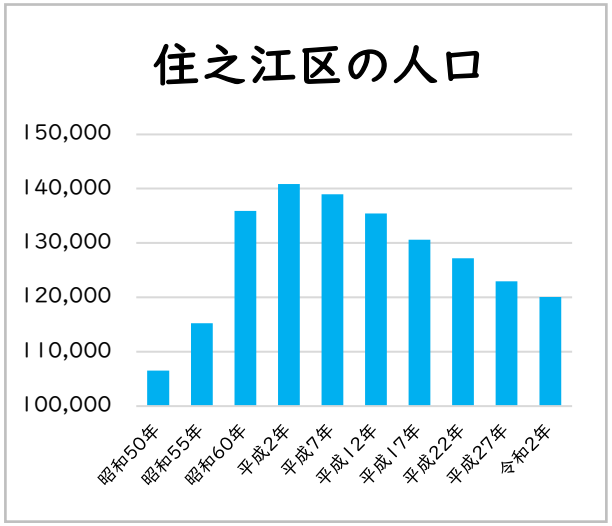
面積：20.68平方キロメートル

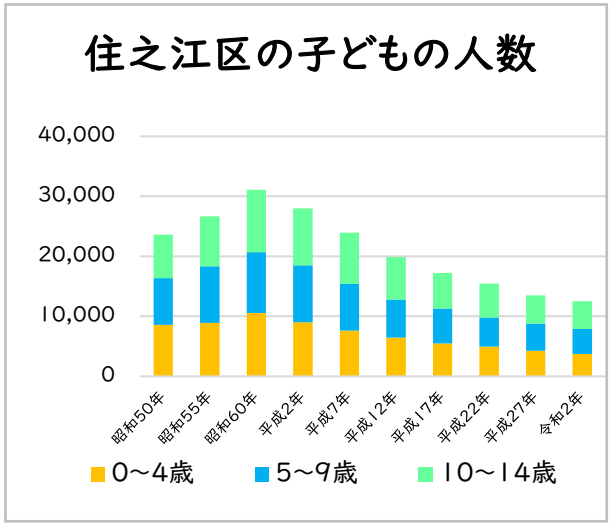
人口：120,072人

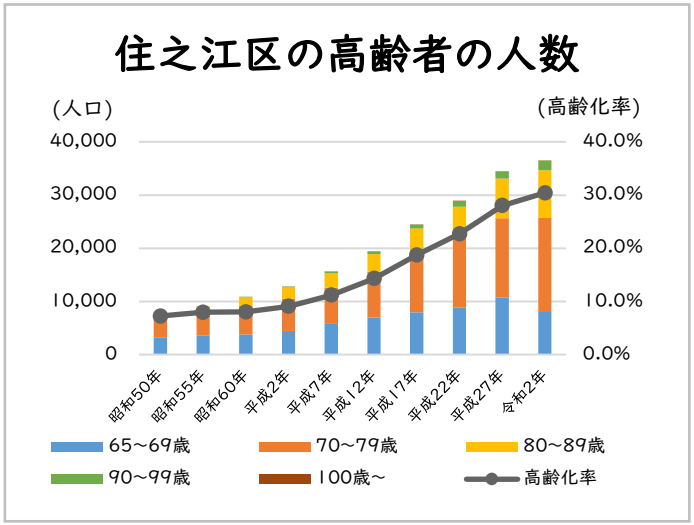
世帯数：59,913世帯　　（令和2年国勢調査より）

住之江区の人口は、平成2年をピークに減少を続けており、急速に少子高齢化が進んでいます。

人口は、まちの活力を示す指標でもあります。こうした人口減少に歯止めをかけ、特に年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）が増加に転じていくよう、まちの魅力を高めていくことが、住之江区の重要な課題となっています。







【各年国勢調査より】

2 名前の由来

住之江は『古事記』『日本書紀』『摂津国風土記』には墨江、住吉、須美之叡などと記され、いずれも「すみのえ」と読んでいました。古来、歌の名所としても知られ、『万葉集』においても、住吉、墨吉、墨江、清江、須美乃江、須美乃延と書いた歌が多数見られます。また、「すみのえ」の由来については、現存はしていませんが、摂津国風土記での記述が他の文献で引用されています。そこでは、神功皇后の世に出現した住吉大神が住むところを探しているときに、これぞ住むべき国（真住吉住吉国）であると称賛し、後にこれを略して須美乃叡と言うようになったとしています。

中世以降に「すみのえ」が「すみよし」に転訛したとも言われていますが、かつて住みよい国、住むべき国と称えられた場所が「すみのえ」であり、今日の住之江区には「住みよい区」の意味が込められているのです。

3 住之江区の歴史

＜古代～中世＞

古代、区域の大半は海であり、上町台地の西端を走る阪堺電気軌道阪堺線あたりが海岸線となっていました。そして、台地のくぼ地を流れる細江川の川下にできた入り江に、墨江津という港が整備され、北の難波津とともに大陸と我が国とを結ぶ国際交流の要衝となっていました。

時代が進むにつれ、土砂の堆積や砂州の成長などにより、海岸線は次第に西に移動していきました。鎌倉時代末期にわが国最初の灯台として建てられたと言われている高燈籠の場所は、今の十三間堀川沿いにあたります。また、こうした陸地化は、新たな町の発達をもたらしました。

室町時代末期には、熊野街道に代わる幹線道路として大阪の低地を通る紀州街道が開かれ、これに沿って安立、粉浜などが街道筋として発達していきました。

＜近 世＞

江戸時代の宝永元年（1704年）、幕府によって、大和川の付替えが行われました。かつての大和川は河内平野で北流し、大阪城の北で淀川に合流していましたが、流路は屈折が多く、大阪市中に度々、脅威を与えていました。

この整備によって、海と内陸部を結ぶ水運が開かれていきます。

一方で新川の土砂が堆積し、堺港は次第に衰退することになりますが、このことにより浅瀬を農地へと開発する新田開発が進められていくこととなります。

多田屋徳右衛門と油屋角兵衛によって北島新田が、次いで加賀屋甚平衛により加賀屋新田が開発されました。

その後、桜井新田、村上新田、庄左衛門新田、嬰木新田、柴谷新田などが次々に開発され、明治の初めころには、現在の平林付近まで土地が広がっていきました。

＜近代～戦前・戦中＞

江戸時代は、住之江区の大半は摂津国住吉郡に属していましたが、明治に入って大阪府住吉郡、明治29年には東成郡となりました。そして、大正14年に大阪市の第2次市域拡張により区域の大半が大阪市住吉区となりました。

また、明治以降の近代国家づくりの中で、鉄道網が急速に整備されるとともに、第1次世界大戦をきっかけとした造船ブームにより、木津川沿いに大小の造船所が相次いで建設されました。さらに当時、大正区船町にあった木津飛行場を移転させ、大和川尻に国際空港を建設するという計画が持ち上がり、これがきっかけとなって南港の埋め立て事業が始まりましたが、その後、戦時体制となったため、国際空港計画は中止となり、工事をほとんど中断したまま終戦を迎えることになりました。

<戦後～現在>

戦後は戦災復興関連の事業が市内全域で進められていく中、昭和22年の「大阪港復興計画」において、大正の内港化を進めるため、大正区内の木材団地を平林に移転させるという構想が打ち出され、昭和23年から約69万㎡の貯木場を整備し、昭和46年に木材業者の移転をすべて完了しました。

また、埋め立てが中断したままだった南港は、重化学工業の拠点として、昭和33年に再開され、大手石油会社が進出を表明するなど、工事に一層のはずみがつくこととなりましたが、その後の状況の変化により、昭和39年に石油会社から契約解除の申し入れがあり、撤退が決定しました。

石油会社の撤退後、昭和42年の「大阪港整備第2次改定計画」によって、新しい港湾都市づくり構想が打ち出されました。この計画は、大阪商港の拡充基地として近代施設と流通機構を整備するというものであり、今日の南港ポートタウンもこの計画に位置づけられています。

また、南港の北側ではコスモスクエア2期地区として埋め立て拡張により海浜緑地を設けるなど海辺のイメージを演出したまちづくりが行われました。

このようなまちづくりの過程で、大阪市では、昭和35年頃から人口が都心部で減少し、周辺部で増加するというドーナツ化現象が始まり、現在の住之江区を含む当時の住吉区が、東区(当時)の人口の8倍にも達する状況となったため、昭和49年に住吉、東住吉、城東、東淀川の4区の分区を実施しました。私たちの住之江区は、この時の住吉区からの分区によって誕生しました。

住之江区は大阪24区の中で最も面積が広く、区内各所には古代からの歴史を反映した有形無形の資産が存在するまちである一方、近年では平成31年に世界にはばたく人材を育むために、大阪市立水都国際中高一貫校（現在は大阪府立）が南港ポートタウンに開校したほか、令和元年6月には大阪国際見本市会場（インテックス大阪）において、我が国が初の議長国となったG20大阪サミットが開催されるなど、現在も発展し続けています。

また、令和6年7月22日には、住之江区制50周年を迎え、区民まつりや記念イベント等で、区民のみなさまと50周年の節目をお祝いしました。

令和7年4月には、いよいよ大阪・関西万博が開幕します。

大阪・関西万博を民間企業等とも連携し盛り上げ、住之江区がますます成長し発展していけるよう、将来ビジョンに描くまちの未来の姿を区民のみなさまと一緒に推し進めていきます。

Ⅱ 将来像と施策の方向

1 住之江区の将来像

2 将来像を実現する3つの柱

3 施策推進のために

1 住之江区の将来像

子どもから高齢者まで、住之江区で暮らし、学び、働くすべての人が、自分の将来に夢と希望を持って、地域への愛着や誇りを持ちながら、充実した日常生活を営むことができるまちをめざします。

”心から誇りに思えるまち、住之江区”が、私たちのめざす将来像です。

2 将来像を実現する3つの柱

「住之江区将来ビジョン」は、住之江区がめざすまちの将来像と施策の方向性を明らかにするものです。住之江区が区民のみなさまと一緒に進めるまちづくりの指針となるもので、施策の柱である「はぐくみ・教育」「すこやか・まちづくり」「防災・安全」の各分野に指針を定めます。

この将来ビジョンに基づいて住之江区の運営方針や予算案などを作成します。

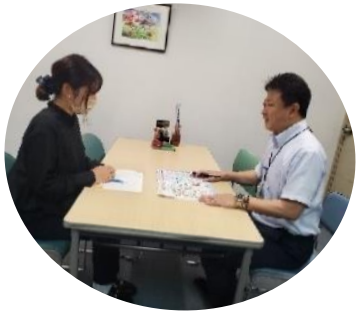
3 施策推進のために

各分野を支えるための手法として、「施策推進の取組み」についても指針を定めています。

- 区役所機能の強化
- 官民連携・情報発信の強化

はぐくみ・教育

子どもたちの未来のために



子育て応援イベント

身体測定

安心して子育てができ、
子どもたちが笑顔で育つまち

切れ目のない子育て支援体制の充実

子どもは、一人ひとりの個性や人格が尊重され、すこやかに育ち、育てられる「かけがえのない存在」ですが、子育てを取り巻く環境は複雑かつ困難さを増しています。子育て世帯や妊産婦、課題を抱える家庭等が、子育ての負担感が軽減され、安心して子育てができるよう、妊娠・出産期、乳幼児期、学齢期、青少年期の全てのステージに応じた切れ目のないサポートを行います。また、身近な場所での子育て相談や多様な支援の情報提供、子育てに関する情報の提供、助言等ができるよう体制を整備・充実します。

気軽につながり安心できる支援環境の整備

子育てには不安や、悩みはつきものです。特に、核家族化や地域のつながりの希薄化が進む今日、保護者が子育てへの悩みを抱え込んだまま、不安な毎日を過ごしてしまっている場合が増えています。保護者が孤立することなく楽しみながら子育てができるよう、悩みを相談しあえたり、子育てに関する有益な情報が確実、簡単に入手できる環境の整備を進めます。

基礎学力アップ事業

すみのえ未来塾事業

子どもたちがいきいきと学び、成長していくまち

子どもたちが安心して学習できる環境の充実

子どもたちが十分な基礎学力を身に着けることは、子どもの将来の可能性の拡大につながります。ですが、「学校に行きづらい」「学校での勉強についていけていない」「家では落ち着いて勉強できない」など、子どもたちの学びには支援を必要とする場面が多くみられます。こうした状況に応じ、誰もが安心して学習できる環境の充実を進めます。

困難に立ち向かう力を育むための取組

子どもたちが自らの未来を切り拓いていくためには、基礎学力や知識に加え、学ぶ意欲や、課題を見つけ解決していく力を養っていくことが大切です。

子どもたちの未来がより充実したものとなるよう、一人ひとりが「こうなりたい」「そのためにこれを学びたい」と、将来を想い描きながらチャレンジする気持ちを持ち、困難に立ち向かいやり抜く力が身につくよう取り組みます。

はぐくみ・教育 Pickup★

区役所には保健師をはじめ、健康や子育ての専門職がいます。
困ったことやお悩みがあればみなさまのお話をうかがいます。
身近な子育ての相談相手として区役所をぜひご活用ください。
切れ目のない施策で支援します。

子どもたちの未来がより充実したものとなるよう、将来を想い描きながらチャレンジする気持ちを持ち、困難に立ち向かいやり抜く力が身につくよう取り組みます。
区内の小中学校では、国際理解教育や課題探求型授業に重点を置いた「府立水都国際中高一貫校」との交流も図っています。

元気で明るい子どもたちを育むために、楽しく遊び感覚で運動に取り組めるような機会の確保等を通じて、運動習慣の定着や体力の向上をサポートします。

地域の子育て家庭への支援にも尽力します。
住之江区子育てプラザでは遊び場の提供や絵本の読み聞かせを行っています。

すこやか・まちづくり

すべての人がいきいきと
自分らしく暮らせるために

支え合い安心して暮らせるまち

包括的な支援の仕組みの構築

地域ですこやかな生活が送れるよう、福祉・健康・医療・介護・暮らしの支援などの制度のもと、福祉サービスを総合的に提供するとともに、包括的な支援の仕組みを構築し、地域において誰もが支えあい、いきいきと豊かに尊厳をもって暮らすことができるよう取り組みます。

安心して生活できるネットワークの充実

誰もが自分らしく安心して生活できる環境を実現するためには、地域内で住民同士が互いに支え合い、それぞれが自分らしく活動できるコミュニティづくりが重要です。身近に住む住民のみなさまが、お互いを気にかけ、見守ることで相手の変化に気づくことができます。住之江区では、各地域が高齢者、障がい者、子どもなどを見守る活動を行っています。変化に気づいた人が自ら助けることができない場合や解決が難しい場合であっても、地域で見守り、適切な支援につなぐことで支え合うことができます。地域で孤立せず、自分らしい生活を送ることができるような、気にかけ、つながり、支え合う地域づくりを推進していきます。

地域での見守り活動

ボッチャ大会

高齢者
食事サービス（配食）

高齢者食事サービス（会食）

健康体操

子育てサロン

すみのえアート・ビート

活力と魅力のあふれるまち

地域を支える活動の活性化

住之江区の各地域では、日ごろから、夏祭りや子育てサロン、ふれあい喫茶、子どもの見守り、近所の清掃など様々な活動が行われています。これらの活動は、日々の暮らしに、にぎわいと安心をもたらすだけでなく、住之江区全体の活力の源ともなっています。こうした地域活動が将来にわたって自律的に行えるよう、地域の特性などそれぞれの地域の実情にあった必要な支援を行うとともに、多様な主体による連携を促し、より発展する環境づくりを進めていきます。

地域への愛着や誇りの醸成

地域への愛着や誇りを持ちながら、充実した日常生活を営むことができるまちづくりをめざします。身近な地域にある歴史や文化の魅力を発信し、地域のみなさまが共有することで、地域への愛着はさらに深まり、次の世代へと引き継がれていきます。ICTの活用を図りながら、このような機運を高めるための環境や仕組みづくりを進めていきます。

すこやか・まちづくり Pick up★

住之江まつりなどのイベントはじめ、
健康体操、配食サービス、ふれあい喫茶…
地域の人が楽しく過ごせるような居場所づくりを
めざしています。

南加賀屋にある
大阪市指定文化財
加賀屋新田会所跡。
身近にある史跡へ
ちょっとお出かけして
みませんか。

名村造船所大阪工場跡地は2007年に
「近代化産業遺産群 33」に選ばれました。
アートを取り入れたまち北加賀屋で新しい
感性に出会えるかも。

防災・安全

安全・安心に暮らすために

災害に強いまち

防災セミナー

マンホールトイレ
設置訓練

みまもり・災害救援
自動販売機設置

可搬式ポンプ訓練

防災まちあるき

防災意識の向上

住之江区では大和川の氾濫や南海トラフ巨大地震、上町断層帯地震の発生による甚大な被害の発生が想定されています。令和６年８月８日に気象庁より南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表され注意が呼びかけられました。突然襲ってくる災害にしっかりと対応するためには、一人ひとりが知識を深め、情報を理解し、日頃から備えることはもちろん、隣近所や地域で助け合える地域づくりが大切です。このため、啓発や人材育成、個別避難計画の作成支援などを通じて自助・近助・共助を高めます。

災害に備える環境整備

災害に強いまちづくりには、自助・近助・共助の力を高めるとともに、ハード、ソフトの両面からまち全体の環境を強化していくことが重要です。このため、津波避難ビル等の避難施設の拡充、防災協力事業者との連携、多文化共生の視点の情報発信、災害発生時の被害想定の分かりやすい周知等の環境整備に取り組みます。

防犯意識の高いまち

ひったくり防止カバー
取付キャンペーン

特殊詐欺被害防止
キャンペーン

交通安全キャンペーン

交通安全教室

防犯意識の向上

住之江区内の犯罪の動向としては、街頭犯罪発生件数は年々減少しているものの、還付金詐欺やオレオレ詐欺といった特殊詐欺の認知件数は増加傾向にあります。このような犯罪は、各自が防犯意識を持ち、日ごろの心がけや適切な対応で被害を防ぐことができます。このため、出前講座や広報ツールを活用した情報発信、警察との連携による各種キャンペーン等を通じて、犯罪発生状況や防犯の知識に関する区民のみなさまの理解を深め、犯罪にあわないよう防犯意識を高める啓発を行います。

犯罪抑止のための環境整備

防犯意識の高いまちづくりのためには、地域住民が協力して防犯活動を推進することができる環境の醸成が大切です。地域住民の意識を高めるとともに、地域の自主防犯活動の促進、地域・警察との連携による犯罪抑止活動の強化など、犯罪が起こりにくい環境整備に取り組みます。

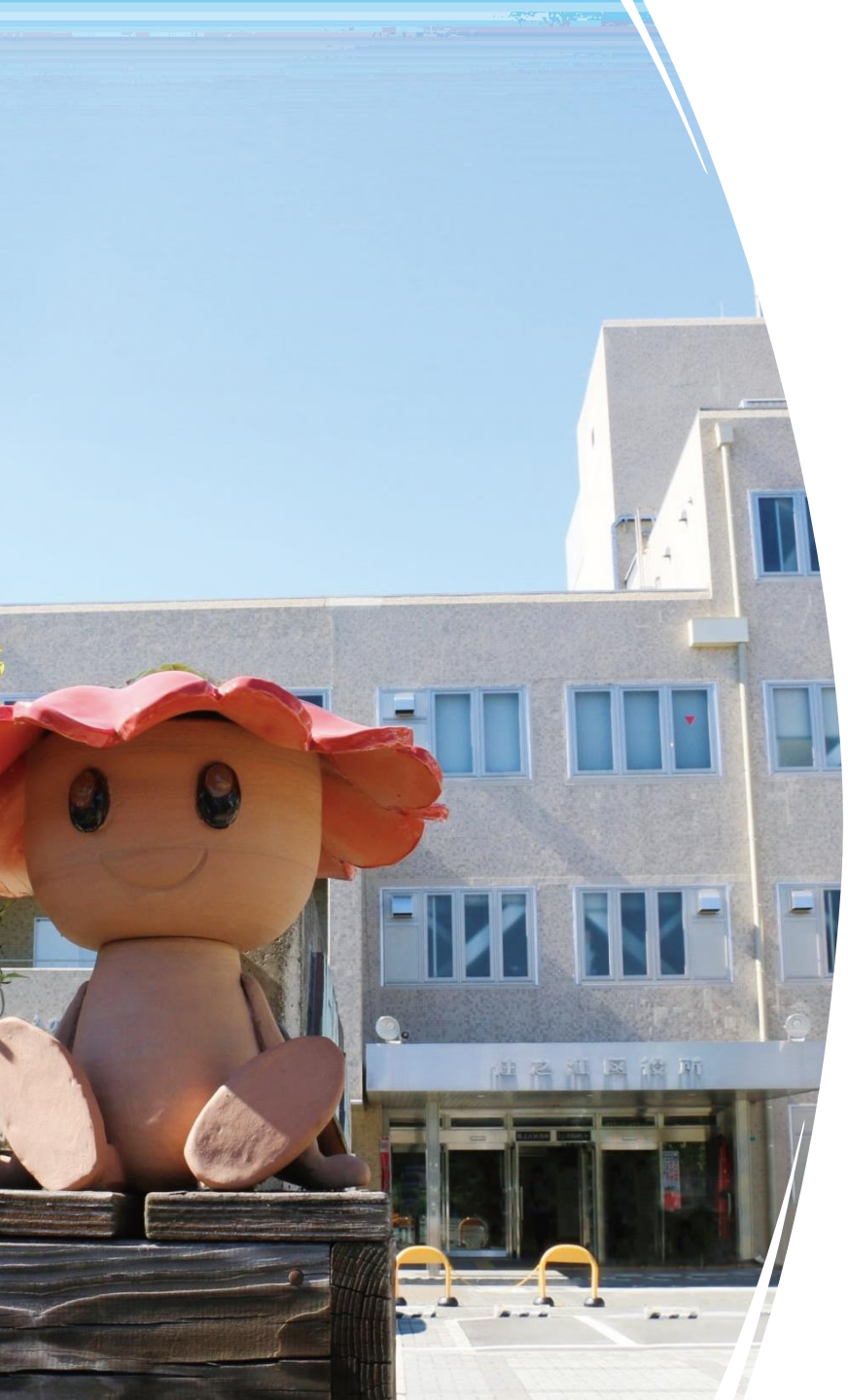
防災・安全 Pickup★

自助・近助・共助の力を高めるには、日頃から備えることはもちろん、隣近所や地域で助け合える地域づくりが大切です。
写真は地域での防災訓練の様子。

大阪市では特殊詐欺被害防止に有効な、「自動通話録音機」を無償貸与しています（貸し出しには条件があります）。

安まちメールで配信があった情報をもとに、巡回強化ポイントを設定し、パトロールを実施しています。
写真は青色防犯パトロールカー。

住之江区広報紙『さざんか』
定期的に防災特集を組んで情報発信しています。
「そういえば私の準備、これで大丈夫なのかな？」
日頃の備えを見直すきっかけになれば幸いです。



施策推進のために

企業・NPO・学校・地域交流会

行政キオスク端末

婚姻届出　記念撮影コーナー設置

区役所機能の強化

～区民に寄り添う区役所をめざします～

まちづくりの支援拠点としての機能の強化

地域コミュニティをつなぎ、まちづくりを支援するために、区役所はまちづくりの拠点としての機能の強化をめざします。地域課題の解決に向けて、地域とともに進めていくために、区役所で働く職員一人ひとりが「市民志向」「チャレンジ精神」「プロ意識」を持って業務に取り組みます。また、地域連携の強化を図るために、他の行政機関や地域団体との連携を強化し、スムーズな情報共有と支援体制を整えることが重要です。

地域の要としての役割を果たし、まちづくりの拠点となるよう取り組みます。

区民の視点に立った区役所サービスの提供

すべての区民に対して、行政サービスや地域活動の様子をわかりやすく提供し、親切・丁寧・迅速な窓口対応を行うことで、信頼される区役所を実現します。さらにICTによる行政手続きを推進するなど、区民の視点を大切にし、区民が利用しやすい区役所づくりに取り組みます。また、区民からの相談をしっかりと受けとめ、寄り添って対応することを心がけ、「区民の役に立つ」区役所となるよう努めます。

官民連携・情報発信の強化
～活力ある地域社会を実現します～

企業と連携した
防災イベント

スポーツチームと連携した
あいさつ運動

企業と連携した
熱中症対策啓発ポスター

区SNS

官民連携の強化による地域課題の解決

区民・事業者・行政等、様々な立場のものが将来ビジョンを共有し、地域課題の解決に向け、企業・大学・NPO・スポーツチーム等と連携し、民間が持つノウハウや経験等を活用した取組を進めます。地域課題に対して官民が協力し、先駆的な取組により、解決を図ります。

区政情報・区の魅力の効果的な発信

広報紙さざんか、区HP、区SNS等といった広報媒体を活用し、区民のみなさまにとって必要な区政情報や住之江区の魅力を効果的に発信します。広報紙さざんかでは、区民のみなさまが見やすい・分かりやすい内容となるよう紙面の充実に努めます。子どもから高齢者まで、誰もが簡単に区政情報にアクセスできるよう様々な広報媒体を活用し、効果的な情報発信を進めます。

制 作

住之江区役所総務課（ICT・企画）
〒559-8601　大阪市住之江区御崎3丁目1番17号
電話：06-6682-9909　FAX：06-6686-2040

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS